



Title	業績リスト(1996)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1997, 3(1), p. 61-74
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56679
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

業績リスト (1996)

基礎看護学講座

1. 論文 (原著, 総説, 報告書等)

- 1) 松木光子：我が国における看護診断の発達と課題, 看護診断, 1 (1), 43 - 49, 1996.
- 2) 松木光子：看護基礎教育課程における「基礎看護学」の位置づけ, Quality Nursing, 2 (4), 4 - 5, 1996.
- 3) 松木光子：「基礎看護学」の構成と理念, Quality Nursing, 2 (4), 6 - 12, 1996.
- 4) 松木光子：「看護学概論」の授業計画とそのポイント, Quality Nursing, 2 (4), 13 - 16, 1996.
- 5) 松木光子：看護における批判的思考能力の重要性, Quality Nursing, 2 (9), 4 - 7, 1996.
- 6) 大谷英子, 松木光子, 他：がん患者のQuality of Life (QOL) と臨床看護の方向性, がん看護, 1 (1), 16 - 22, 1996.
- 7) 小笠原知枝, 久米弥寿子, 田中結華, 阿曾洋子, 大野ゆう子, 松木光子：基礎看護学教育における臨床場面への早期暴露とグループワークを関連づけることによる学習効果, 大阪大学看護学雑誌, 2 (1), 23 - 28, 1996.
- 8) 小笠原知枝：人間関係技術の授業計画と指導, Quality Nursing, 2 (4), 24 - 27, 1996.
- 9) 小笠原知枝, 久米弥寿子：「看護過程」の教授計画と指導, Quality Nursing, 2 (4), 18 - 22, 1996.
- 10) 小笠原知枝, 久米弥寿子, 辻聡子, 田中結華：データ収集と批判的思考能力のトレーニング, Quality Nursing, 2 (9), 19 - 25, 1996.
- 11) 牛込三和子, 大野ゆう子他：難病患者の療養実態の数量的把握に関する研究, 特殊疾病 (難病) に関する報告書, 192 - 221, 1996.
- 12) 阿曾洋子：在宅寝たきり老人の自立意欲に関連する要因についての分析, 大阪大学医学雑誌, 48 (1), 55 - 61, 1996.
- 13) 池内佳子, 中野智津子, 阿曾洋子他4名：職場適応に関する縦断的研究 (第5報) - 本学卒業生の卒後1年間における看護の姿勢の変化 (他の教育機関の卒業生との比較) -, 神戸市立看護短期大学紀要, 15, 1 - 17, 1996.
- 14) 阿曾洋子：「生活援助技術」「治療関連技術」の授業計画と指導, Quality Nursing, 2 (4), 28 - 35, 1996.
- 15) 阿曾洋子, 田中結華, 久米弥寿子：基礎看護学実習その1, 大阪大学の場合, Quality Nursing, 2 (4), 41 - 53, 1996.
- 16) 阿曾洋子：褥瘡の発生過程：生理学的側面から, 看護技術, 42 (1), 6 - 9, 1996.
- 17) 阿曾洋子：褥瘡の発生と治癒のメカニズム, 月刊ナーシング, 16 (9), 1996.
- 18) 阿曾洋子：寝たきりが身体面・精神面に与える影響, 看護技術, 42 (13), 10 - 14, 1996.

2. 単行本 (著書, 翻訳本)

- 1) 松木光子 (稲本一夫, 早川和生編)：看護とは, 医用放射線科学講座 3, 臨床医学, 医歯薬出版, 95 - 98, 1996.
- 2) 松木光子 (稲本一夫, 折田義正編)：看護制度と看護業務, 医用放射線科学講座 3, 臨床科学, 医歯薬出版, 113 - 118, 1996.
- 3) 松木光子監修：大阪看護学臨地実習研究会編 看護学臨地実習ハンドブック 基礎的考え方とすすめ方, 金芳堂, 1996.
- 4) 松木光子監修：看護学生のための専門科目自己学習, 1. 基礎看護学, 金芳堂, 1996.
- 5) 松木光子監修：看護学生のための専門科目自己学習, 2. 成人看護学, 金芳堂, 1996.
- 6) 松木光子監修：看護学生のための専門科目自己学習, 3. 老人看護学, 金芳堂, 1996.
- 7) 松木光子監修：看護学生のための専門科目自己学習, 4. 小児看護学, 金芳堂, 1996.
- 8) 松木光子監修：看護学生のための専門科目自己学習, 5. 母性看護学, 金芳堂, 1996.
- 9) 小笠原知枝：看護学の基本構造と教育・研究 (稲本一夫, 折田義正編; 臨床医学), 124 - 129, 医歯薬出版, 1996.
- 10) 阿曾洋子 (稲本一夫, 折田義正編)：看護の機能と役割, 医用放射線科学講座 3, 臨床医学, 医歯薬出版, 104 - 113, 1996.

3. 学会発表 (抄録, Proceedings)

- 1) M. Matsuki : Classification of Nursing Diagnoses Proceedings of the 11th Conference, CINAHL Information Systems, 313-316, 275-276, 1996.
- 2) E. Otani, M. Matsuki, Y. Yamamoto, Y. Kume, Y. Kido : Studies on quality of life (QOL) of patients who underwent esophagectomy for esophageal cancer (1) Subjective symptoms, 9th International Conference on Cancer Nursing, 1996.
- 3) Y. Yamamoto, M. Matsuki, E. Otani, Y. Kume, Y. Kido : Studies on quality of life (QOL) of patients who underwent esophagectomy for esophageal cancer (2) Dietary behaviours, 9th International Conference on Cancer Nursing, 1996.
- 4) Y. Kume, M. Matsuki, E. Otani, Y. Yamamoto, Y. Kido : studies on quality of life (QOL) of patients who underwent esophagectomy for esophageal cancer (3) Psycho-social phase, 9th International Conference on Cancer Nursing, 1996.
- 5) 大谷英子, 松木光子, 小笠原知枝, 江川隆子, 大野ゆう子：NANDA 診断カテゴリーの使用頻度と重要性に関する調査, 第16回日本看護科学会, 1996.
- 6) 江川隆子, 松木光子, 大谷英子, 小笠原知枝, 大野ゆう子：

- NANDA 診断カテゴリーの適切性の評価, 第16回日本看護科学学会, 1996.
- 7) 小笠原知枝, 久米弥寿子, 田中結華, 阿曾洋子, 松木光子: 基礎看護教育における臨床の看護ケアと関連づけた指導法の検討(その2) - 生活援助技術領域の指導法, 第16回日本看護科学学会, 1996.
 - 8) 田中結華, 小笠原知枝, 久米弥寿子, 阿曾洋子, 松木光子: 基礎看護教育における臨床の看護ケアと関連づけた指導法の検討(その1) - 生活援助技術領域の指導法, 第16回日本看護科学学会, 1996.
 - 9) 阿曾洋子, 藤田恵子, 高鳥毛敏雄, 多田羅浩三: 在宅寝たきり老人の自立意欲の1年間の維持に関する分析, 第55回日本公衆衛生学会, 1996.
 - 10) 阿曾洋子, 氏家幸子: 要介護老人に対する看護婦の生活動作能力評価に関する研究, 第16回日本看護科学学会, 1996.
 - 11) 池内佳子, 中野智津子, 阿曾洋子, 吉田正子: 職場適応に関する縦断的研究 - 看護に対する姿勢が関連する看護実践内容の分析 -, 第16回日本看護科学学会, 1996.
 - 12) 田中結華, 上原ます子他: 看護の質的な継続のための在宅療養に向けた退院指導の実施状況と問題点, 平成7年度近畿地区看護研究学会, 1996.
 - 13) 久米弥寿子: 一般青壮年層の癌告知に対する態度とそれに関連する要因 - 企業就労者における分析 -, 第16回日本看護科学学会, 1996.
- #### 4. 研究助成
- 1) 平成8年度文部省科学研究費(基礎B), 松木光子(代表), 小笠原知枝, 江川隆子, 大野ゆう子, 城戸良弘他: 看護情報システムのための看護診断の標準化と評価用具のソフト開発.
 - 2) 平成7年度文部省科学研究費(一般C), 小笠原知枝, 松木光子, 阿曾洋子, 田中結華, 久米弥寿子他: 看護学における看護技術の指導法に関する研究
 - 3) 大阪ガスグループ福祉財団研究・調査助成金, 阿曾洋子, 多田羅浩三, 趙林, 浅井正雄: 在宅寝たきり老人の13年間の推移からみた老人の医療と介護状況の実態

母性小児看護学講座

- #### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)
- 1) 堀井理司, 野々山未希子: 感染看護, 千葉看護学会会誌, 1(1), 19 - 20, 1996
 - 2) 原田徳蔵: 小児の臨床検査 - zinc - 小児科診療増刊号, 121 - 122, 1996.
 - 3) 原田徳蔵: 小児・若年者をとりまくストレスと疾患, 臨床と薬物治療, 15, 542 - 545, 1996.
 - 4) 澤田 敦, 田尻 仁, 古座岩宏輔, 多田香苗, 恵谷ゆり, 尾崎由和, 三木和典, 原田徳蔵, 岡田伸太郎: 小児B型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の成績, 日本小児科学会雑誌, 100(9), 1504 - 1507, 1996.
 - 5) 原田徳蔵: 体重増加不良, 小児内科, 28(10), 1328 - 1331, 1996.
 - 6) 高木洋治, 岡田正: 在宅経静脈栄養療法とその管理, Medical Practice, 13(臨), 145 - 154, 1996.
 - 7) 高木洋治, 田中清美: 亜鉛製剤, 栄養評価と治療, 13(2), 209 - 212, 1996.
 - 8) 高木洋治, 岡田正, 根津理一郎, 山東勤弥, 和佐勝史, 飯干泰彦, 桜井康介: 長期静脈栄養例での微量元素異常, 小児外科, 28(10), 1206 - 1215, 1996.
 - 9) 高木洋治, 岡田正: 小児在宅栄養輸液のガイドライン, 小児科, 37(8), 925 - 931, 1996.
 - 10) 高木洋治, 岡田正: 短腸症候群, 臨床消化器内科, 11(4), 495 - 502, 1996.
 - 11) 高木洋治, 岡田正: 経腸栄養の適応と禁忌, 総合医療, 45(10), 2441 - 2442, 1996.
 - 12) Iibosi Y, Nezu R, Cui L, Chen K, Khan J, Yosida H, Sando K, Kamata S, Takagi Y, Okada A: Adhesive mucous gel layer and mucus release as intestinal barrier in rats. JPEN, 20(2), 98 - 104, 1996.
 - 13) Iibosi Y, Nezu R, Khan J, Chen K, Cui L, Yosida H, Wasa M, Fukuzawa M, Kamata S, Takagi Y, Okada A: Developmental changes in distribution of the mucous gel layer and intestinal permeability in rat small intestine. JPEN, 20(6), 406 - 411, 1996.
 - 14) Chen K, Nezu R, Takagi Y, Sando K, Iibosi Y, Yosida H, Kamata S, Okada A: Growth hormone accelerates healing of indomethacin-induced intestinal ulcer in rats. JPEN, 20(1), S19, 1996.
 - 15) Chen K, Nezu R, Sando K, Hague M, Iibosi Y, Masunari A, Yosida H, Kamata S, Takagi Y, Okada A: Influence of glutamine supplemented parenteral nutrition on intestinal amino acid metabolism in rats after small bowel resection. Surg. Today, 26, 618 - 623, 1996.
 - 16) Cui L, Takagi Y, Nezu R, Iibosi Y, Yosida H, Sando K, Okada A: Prolonged zinc-deficient diet alters alkaline phosphatase and disaccharidase activities and induces morphological changes in the intestine of rats. The journal of trace elements in experimental medicine, (8), 249 - 261, 1996.
 - 17) Haque M, Okada A, Chen K, Usui N, Iibosi Y, Okuyala H, Masunari A, Cui L, Nezu R, Takagi Y: Alanine-glutamine dipeptide-supplemented parenteral nutrition improves intestinal metabolism and prevents increased permeability in rats. Annals of surgery, 223(3), 334 - 341, 1996.
 - 18) Haque M, Okada A, Usui N, Iibosi Y, Okuyala H, Masunari A, Chen K, Nezu R, Takagi Y: Quantification of intestinal blood flow by ultrasonic transit time flowmetry in fed and endotoxaemic rats, Eur J, Sur, 162, 561 - 565, 1996.

- 19) 吉田洋, 高木洋治, 飯干泰彦, 和佐勝史, 根津理一郎, 岡田正: 在宅中心静脈栄養の場合の静脈確保とその管理, 小児外科, 28 (8), 974 - 978, 1996.
- 20) 垣田晴樹, 和佐勝史, 飯干泰彦, 吉田洋, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 小児造血幹細胞移植症例における血アミノ酸値の検討, 栄養評価と治療, 13 (4), 409 - 412, 1996.
- 21) 田中清美, 高木洋治, 増成彰, 小林秀之, 吉田洋, 飯干泰彦, 山東勤弥, 和佐勝史, 根津理一郎, 岡田正, 鈴木芳郎: 在宅静脈栄養法における調製輸液の安定性に関する検討, 栄養評価と治療, 13 (2), 80 - 84, 1996.
- 22) 中嶋有加里, 山地建二, 藤岡千秋: 妊産婦の家族形態に関連する諸要因 - 核家族と直系家族の比較 -, 大阪大学看護学雑誌, 2 (1), 10 - 16, 1996.
- 23) 中嶋有加里, 山地建二, 藤岡千秋: 乳児をもつ両親の保健行動に関する研究, 日本健康教育学会誌, 4, 44 - 45, 1996.
- 24) 中嶋有加里, 中村紀彦, 小山田浩子, 山地建二, 細野剛良, 藤岡千秋: 妊娠中から産後にかけての保健行動の変化 - 大阪府における調査 -, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 26 - 29, 1996.
- 25) 中嶋有加里, 小山田浩子, 山地建二, 細野剛良, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 妊娠中から産後にかけての保健行動の変化 - 小豆島における追跡調査 -, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 30 - 33, 1996.
- 26) 中嶋有加里, 石橋真理子, 小松真樹子, 小山田浩子, 山地建二, 細野剛良, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 独身男性と乳児の父親の保健行動の比較, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 122 - 125, 1996.
- 27) 中嶋有加里, 小松真樹子, 石橋真理子, 小山田浩子, 山地建二, 細野剛良, 羽座典子, 河野正規, 藤岡千秋: 独身女性と乳児の母親の保健行動の比較, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 126 - 129, 1996.
- 28) 関得一郎, 山地建二, 折田義正, 篠田晶子, 古川一郎: カラムスイッチング液体クロマトグラフィーによる尿酸とクレアチニンの同時測定, 生物試料分析, 19 (4), 237 - 245, 1996.
- 29) 小山田浩子, 中嶋有加里, 山地建二, 鈴木敦子, 原口範子, 米田美幸保, 大迫靖子, 西崎孝道: 思春期外来における栄養調査と援助に関する研究 - 骨粗鬆症予防の看護 -, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 145 - 148, 1996.
- 30) 浅見恵利子, 大島和枝, 長濱博子, 大西玲子, 張浩子, 小山田浩子, 小早川和子: 産褥ケア事業に関する意識調査 - 大阪府下の母親を対象に -, 大阪母性衛生学会雑誌, 32, 102 - 106, 1996.
- 31) 小山田浩子, 鈴木敦子, 山地建二, 原口範子: 思春期の骨粗鬆症予防と保健行動, Osteoporosis Japan, 4 (3), 90 - 94, 1996.
- 32) 小山田浩子, 山地建二, 鈴木敦子, 原口範子, 米田美幸保, 萬本明子, 西崎孝道: 思春期外来における骨粗鬆症予防の視点からの援助, 思春期学, 14 (3), 303 - 308, 1996.
- 33) Seki, T., Yamaji, K., Orita, Y., Moriguchi, S., Shinoda, H.: Simultaneous determination of uric acid and creatinine in biological fluids by column-switching liquid chromatography with ultraviolet detection, Journal of chromatography A, 730, 139 - 145, 1996.
- 34) 鈴木敦子: 子どもの虐待とケアの方向, 大阪大学看護学雑誌, 2 (1), 2 - 9, 1996.
- 35) 小林美智子, 納谷保子, 鈴木敦子他: ハイリスク児に対する虐待発生予防の地域システムにおける保健婦の役割, 厚生省心身障害児研究報告書, 42 - 54, 1996.
- 36) 鈴木敦子: 「看護診断」に必要な批判的思考能力の育成, Quality of Nursing, 2 (9), 8 - 13, 1996.
- 37) 鎌田佳奈美, 片芝裕子, 竹折洋子: 神経性食思不振症児への関わり - 社会性における自己の定位にむけて - 大阪大学看護学雑誌, 2 (1), 17 - 22, 1996.
- 38) 前田和甫 (代表), 新道幸恵, 鈴木敦子, 北山秋雄, 植木野裕美, 鎌田佳奈美他: 災害時における公衆衛生活動に関する研究, 平成7年度厚生省看護科学研究事業, 研究報告書 1996.
- 39) 鎌田佳奈美: 事例による被虐待児および家族が抱えている問題分析と保健・医療職の介入方策の探求, 笹川医学医療財団看護職員研究報告, 3, 79 - 84, 1995.

2. 単行本 (著書, 翻訳本)

- 1) 原田徳蔵: 小児疾患の特徴と放射線検査, 医用放射線科学講座 3, 編集, 稲本一夫, 折田義正, 71 - 76, 医歯薬出版, 東京, 1996.
- 2) 原田徳蔵: 乳児難治性下痢症, 1997年版今日の治療指針, 39: 771, 医学書院, 東京
- 3) 大橋一友, 山地建二: 女性性器疾患と放射線検査, 「臨床医学」(稲本一夫, 折田義正編), 医歯薬出版, 81 - 85, 1996.
- 4) 福益博, 小山田浩子: 糖尿病患者の妊娠・出産に際しての治療と看護, 「クリニカルナーシングガイド」, メディカ出版, 213 - 222, 1996.
- 5) 竹村喬, 中嶋有加里, 山地建二, 小山田浩子: 保健指導の意義と歴史的推移, 「母親学級・両親学級指導マニュアル」(夏山英一編), メディカ出版, 14 - 24, 1996.
- 6) 高木洋治, 根津理一郎, 岡田正: 亜鉛欠乏症, 内科治療ガイド'96編集, 和田孜ら, 1535 - 1537, 文光堂, 東京, 1996.
- 7) 高木洋治: 在宅経腸栄養で移行できた症例, ビジュアル臨床栄養百科第4巻, 監修岡田正, 160 - 163, 小学館, 東京 1996.
- 8) 高木洋治: 在宅静脈栄養を施行している症例, ビジュアル臨床栄養百科第4巻, 監修岡田正, 164 - 167, 小学館, 東京 1996.
- 9) 高木洋治, 岡田正: 在宅栄養管理・栄養管理チーム, 代謝・栄養管理のてびき, 編集, 大原毅, 110 - 114, 医歯薬出版, 東京, 1996.
- 10) 常盤文枝, 鈴木泰子: マーガレット・A・ニューマン, やさしく学ぶ看護理論 (黒田裕子編集), 日経研出版, 149 - 163, 1996.

3. 学会発表

- 1) 鎌田佳奈美, 鈴木敦子, 榎木野裕美, 石原あや, 鈴木泰子, 親川真理子, 山本順子, 若林栄子: 被災した子どもへの看護職の関わり, 第6回日本小児看護研究学会講演集, 5 (1), 18 - 19, 1996.
- 2) 鈴木泰子, 鈴木敦子, 鎌田佳奈美, 榎木野裕美: 被災における思春期の症状と心のケアについて - 看護職に対するアンケートより -, 第16回日本思春期学会学術大会講演抄録集, 54, 1996.
- 3) 榎木野裕美, 鈴木敦子, 鎌田佳奈美, 鈴木泰子, 石原あや, 親川真理子, 山本順子, 福井典子, 友田尋子: 被災児への心のケアに関する看護者の認知, 第27回日本看護学会集録 - 小児看護 -, 90 - 92, 1996.
- 4) 鈴木泰子: 病気の子どもの同胞のソーシャルサポート, ストレスの認知, コーピング及びコーピングの結果の関係, 第16回日本看護科学学会講演集, 16 (2), 168 - 169, 1996.
- 5) 近藤宏樹, 古座岩宏輔, 田尻仁, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田敦, 三木和典, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 長期間にわたり寛解状態が持続している自己免疫性肝炎の1女児例, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 6) 古座岩宏輔, 沢田敦, 多田香苗, 恵谷ゆり, 三木和典, 田尻仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 小児慢性肝疾患における門脈本幹最高血流測度の検討 - 組織学的活動性との相関について -, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 7) 藤波桂, 恵谷ゆり, 古座岩宏輔, 多田香苗, 沢田敦, 尾崎由和, 三木和典, 田尻仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 福井雄一, 岡田正: 急速な肝不全の進行および消化管出血を示した胆道閉鎖症の1例における octreotide の有用性について, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 8) 沢田敦, 田尻仁, 郭 薇, 多田香苗, 恵谷ゆり, 古座岩宏輔, 三木和典, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 金崎巧, 尾崎由和, 迫正廣: 小児C型慢性肝炎患者に対するインターフェロン療法の長期成績, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 9) 廣瀬正幸, 沢田敦, 田尻仁, 村松岳, 恵谷ゆり, 多田香苗, 古座岩宏輔, 三木和典, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: インターフェロン抵抗性の小児B型慢性肝炎患者に対するインターフェロンとプロパゲルマニウムの併用療法の経験, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 10) 鍵谷九里子, 三木和典, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田敦, 古座岩宏輔, 田尻仁, 中村可奈, 松本小百合, 島雅昭, 山本威久, 原田徳蔵, 岡田伸太郎: 長期完全静脈栄養中に低リン血症性くる病を合併した先天性微絨毛萎縮の1例, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 11) 沖永晶子, 古座岩宏輔, 鈴木保宏, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田敦, 三木和典, 田尻仁, 小野寺隆, 永井利三郎, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 食道狭窄を合併し, 胃瘻造設術を施行したA群色素性乾皮症の1例, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 12) 恵谷ゆり, 田尻仁, 郭 薇, 虫明聡太郎, 多田香苗, 沢田敦, 古座岩宏輔, 三木和典, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 堀田博: C型肝炎母児感染5例の分子生物学的診断と臨床経過について, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 13) 竹内真, 佐野哲也, 黒飛俊二, 小垣滋豊, 松下享, 松本小百合, 山本威久, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 門場啓司, 松田暉: 学童期以降の心疾患患児の体組成および高脂血症の検討, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 14) 金野雅子, 古座岩宏輔, 田尻仁, 多田香苗, 恵谷ゆり, 沢田敦, 三木和典, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 三上泰司: サラゾスルファピリシンとウルソデオキシコール酸の併用療法が有効であった原発性硬化性胆管炎の1例, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 15) 吉村文一, 位田忍, 古座岩宏輔, 沢田敦, 三木和典, 田尻仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: ^{13}C -尿素呼吸試験によるH-pylori胃内感染の経時的観察, 第23回日本小児栄養消化器病学会, 1996.
- 16) 多田香苗, 三木和典, 原田徳蔵, 恵谷ゆり, 沢田敦, 田尻仁, 長谷川利路, 福井雄一, 岡田正, 尾崎由和: 黄疸低下にもかかわらず非代償性肝不全を呈した2例 - 内科的管理の重要性について -, 第23回日本胆道閉鎖症研究会, 1996.
- 17) 原田徳蔵: 在宅静脈栄養の現況 - 小児例 (代謝面を中心に), 第33回日本小児外科学会ランチョンセミナー, 1996.
- 18) 原田徳蔵: クレチン症のマスクリーニング, 第13回OHP研究会, 1996.
- 19) 原田徳蔵: 小児の吸収不全症候群における糞便検査, 第22回一般検査研修会 (日本臨床衛生検査技師会主催), 1996.
- 20) Harada T, Ozaki Y, Kozaiva K, Miki K, Tajiki H, Matsumoto S, Sawada A, Nagai T, Tsujino Y, Okada S: Change in body composition after growth hormone therapy in Prader-Willi Syndrome, The 7th GH Symposium Madrid. 1996.
- 21) 岩城大, 恵谷ゆり, 古座岩宏輔, 多田香苗, 沢田敦, 尾崎由和, 田尻仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: ^{13}C -尿素呼吸テストが診断と除菌効果の判定に有用だったヘリコバクターピロリ感染症の1女児例, 第127回大阪小児科学会, 1996.
- 22) 和佐勝史, 飯干泰彦, 野瀬恵介, 岡田正, 高木洋治, 原田徳蔵: 小児HPN症例の検討, 第11回在宅静脈栄養研究会, 1996.
- 23) 木下直俊, 尾崎由和, 恵谷ゆり, 多田香苗, 沢田敦, 古座岩宏輔, 田尻仁, 岡田伸太郎, 原田徳蔵: 治療に難渋し, ステロイドパルス療法にて寛解が得られた甲状腺機能亢進症の1例, 第6回近畿小児内分泌研究会, 1996.
- 24) 高木洋治: 栄養管理における微量元素, 第20回四国臨床栄養研究会特別講演, 1996.
- 25) 高木洋治, 岡田正: 長期静脈栄養患者の血中Mn濃度とMRI所見について, 平成7年度日本医学協力研究会栄養異常専門部会研究報告会, 1996.
- 26) 高木洋治: 栄養管理における微量元素, 第4回栃木県代謝栄養懇話会特別講演, 1996.
- 27) 高木洋治: 栄養状態の評価 - 皮脂厚の計測と問題点 - 第4次生涯教育研修会, 1996.

- 28) 高木洋治: 末梢静脈栄養, 輸液栄養療法研究会, 第2回薬剤師教育センター, 1996.
- 29) 高木洋治, 山東勤弥, 飯干泰彦, 岡田正, 根津理一郎, 桜井康介: 新たなマンガン (Mn) 指標 - Mn on-off時の血漿・全血中Mn値と脳MRI, T1値について, 第96回日本外科学会総会, 1996.
- 30) 飯干泰彦, 高木洋治, 戸部秀之, 吉田洋, 和佐勝史, 根津理一郎, 岡田正: 栄養外来患者19例におけるDual energy x-ray absorptiometry (DEXA) による骨塩量の検討, 第159回近畿外科学会, 1996.
- 31) 吉田洋, 飯干泰彦, 和佐勝史, 根津理一郎, 高木洋治, 岡田正: Zymosan腹膜炎モデルに対するTPNにおける輸液組成に及ぼす影響, 第33回日本外科代謝栄養学会, 1996.
- 32) 和佐勝史, 松尾吉庸, 井村賢治, 山東勤弥, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 小児短腸症候群の長期予後に関する検討, 第33回日本小児外科学会総会, 1996.
- 33) 和佐勝史, 飯干泰彦, 吉田洋, 野瀬恵介, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 栄養法の選択と今後の問題点, 第6回近畿輸液・栄養研究会, 1996.
- 34) 和佐勝史, 飯干泰彦, 野瀬恵介, 高木洋治, 原田徳蔵, 岡田正: 小児HPN症例の検討, 第11回在宅静脈栄養 (HPN) 研究会, 1996.
- 35) 飯干泰彦, 根津理一郎, 高木洋治, 岡田正: Intestinal barrierとしての腸管粘液の意義, 第26回日本腹部救急医学会総会, 1996.
- 36) 吉田洋, 飯干泰彦, 和佐勝史, 根津理一郎, 高木洋治, 岡田正: 心電図ガイド下中心静脈カテーテル挿入法の有用性の検討, 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 37) 野瀬恵介, 高木洋治, 和佐勝史, 飯干泰彦, 岡田正, 根津理一郎, 吉崎和幸: 後天性免疫不全症候群 (AIDS) 患者に発症したCryptosporidium腸炎に対し在宅中心静脈栄養 (HPN) を施行した1例, 第160回近畿外科学会, 1996.
- 38) 陳冬利, 山東勤弥, 和佐勝史, 陳 愷, 吉田洋, 飯干泰彦, 田中清美, 根津理一郎, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 5-FU投与による過酸化脂質障害に対するセレンの防御効果, 第11回日本静脈・経腸栄養研究会, 1996.
- 39) 崔 黎, 高木洋治, 山東勤弥, 根津理一郎, 飯干泰彦, 吉田洋: IL-1 α 投与による亜鉛代謝の変動 - とくに亜鉛欠乏時の分布動態について -, 第11回日本静脈・経腸栄養研究会, 1996.
- 40) 崔 黎, 高木洋治, 和佐勝史, 根津理一郎, 飯干泰彦, 吉田洋, Khan J, 岡田正: 亜鉛欠乏ラットにおけるIL-1 α 投与による亜鉛分布動態およびメタロチオネチンmRNAの検討, 第7回日本微量元素学会, 1996.
- 41) 陳 愷, 根津理一郎, 井上正宏, 和佐勝史, 山東勤弥, 飯干泰彦, 吉田洋, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 炎症性腸疾患に対するGrowth Hormone投与の効果に関する実験的検討, 第96回日本外科学会, 1996.
- 42) 飯嶋千里, 和佐勝史, 河原林雅子, 垣田晴樹, 田中清美, 吉田洋, 飯干泰彦, 高木洋治, 岡田正: 高齢者のHPN症例に関する問題点, 第6回近畿輸液・栄養研究会, 1996.
- 43) 佐藤美奈子, 和佐勝史, 飯嶋千里, 田中清美, 垣田晴樹, 吉田洋, 飯干泰彦, 高木洋治, 岡田正: HPN症例管理におけるNutrition Support Team (NST) の一員としての看護婦の役割, 第11回在宅静脈栄養 (HPN) 研究会, 1996.
- 44) 垣田晴樹, 和佐勝史, 飯干泰彦, 吉田洋, 鎌田振吉, 高木洋治, 岡田正: 小児造血幹細胞移植症例における血アミノ酸値の検討, 第19回日本栄養アセスメント研究会, 1996.
- 45) 飯嶋千里, 高木洋治, 河原林雅子, 垣田晴樹, 田中清美, 野瀬恵介, 飯干泰彦, 和佐勝史, 岡田正: HPN管理を施行したAIDS患者の一例, 第5回HIT研究会公開セミナー, 1996.
- 46) Takagi Y, Okada A: Home parenteral nutrition (HPN) in Japan, Beijing International Symposium on Recent Advances in Parenteral and Nutrition (Clinical Nutrition), 1996.
- 47) Iiboshi Y., Nezu R., Takagi Y., Okada A.: Development of mucous layer and intestinal permeability, Clinical Congress of ASPEN (20), 1996.
- 48) Chen K., Nezu R., Takagi Y., Sando K., Iiboshi Y., Yoshida H., Kamata S., Okada A.: Growth hormone accelerates healing of in domethacin induced intestinal ulcer in rats, ASPEN (20), 1996.
- 49) 細野剛良, 中村紀彦, 山地建二: ラット体温調節系に対するエストロゲン及び加齢の効果, 第48回日本産科婦人科学会, 1996.
- 50) 細野剛良, 藤原素子, 高木哲, 中村益久, 平田耕造, 阿曾洋子, 山地建二, 彼末一之: 「冷え」「のぼせ」と運動習慣に関するアンケート調査, 第94回近畿産科婦人科学会, 1996.
- 51) 細野剛良, 山地建二: 無麻酔無拘束ラットの皮膚血管運動に対するエストロゲンの効果, 第19回日本産科婦人科ME懇話会, 1996.
- 52) 小山田浩子, 山地建二, 鈴木敦子, 原口範子, 米田美幸保, 西崎孝道: 思春期外来受診者の栄養摂取とライフスタイル - 栄養・生活調査から -, 第15回日本思春期学会, 1996.
- 53) 水畑喜代子, 中嶋有加里, 小山田浩子, 長谷川利典, 山地建二, 羽座典子, 細野剛良, 藤岡千秋: 若い両親と児を支援するための地域社会システムの基礎的研究 (第1報) - 子育てを終えた女性の意識調査 -, 第37回日本母性衛生学会, 1996.
- 54) 中嶋有加里, 小山田浩子, 中村紀彦, 山地建二, 羽座典子, 水畑喜代子, 細野剛良, 藤岡千秋: 産後の女性の保健行動に関する研究 - 独身時および妊娠中との比較 (小豆島における調査) -, 第37回日本母性衛生学会, 1996.
- 55) 小山田浩子, 中嶋有加里, 山地建二, 原口範子, 米田美幸保, 西崎孝道: 思春期外来受診者の栄養摂取と体重について - 栄養・生活調査から -, 第37回日本母性衛生学会, 1996.
- 56) 浅見恵梨子, 小山田浩子, 長浜博子, 大西玲子, 張浩子, 大島和枝, 小早川和子: 今こそ「産後ケア事業に関心を!」 - 大阪府下の母親のニーズ調査より -, 第55回日本公衆衛生学会, 1996.
- 57) Nakajima, Y., Yamaji, K.: Research on the actual condition

of fathers' participation in infant care, 24th Triennial Congress of International Confederation of Midwives, 1996.

- 58) Seki, T., Orita, Y., Yamaji, K., Shinoda, A. : Simultaneous determination of creatinine, hypoxanthine and uric acid in biological samples by column-switching liquid chromatography with ultraviolet detection, 7th International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis, 1996.
- 59) 上野昌枝, 鈴木敦子, 山田和子, 他 : 阪神大震災で被災した子どもへの保健婦のかかわり, 第55回日本公衆衛生学会, 1996.
- 60) 榎木野裕美, 鈴木敦子, 鎌田佳奈美, 他 : 被災児への心のケアに関する看護者の認知, 第27回日本看護学会 (小児看護), 1996.
- 61) 水流聡子, 新道幸枝, 鈴木敦子, 他 : 医療機関におけるケアニーズの潜在構造と充足構造, 第16回日本看護科学学会, 1996.

4. 研究助成

- 1) 平成7年度文部省科学研究費 (一般C), 鈴木敦子, 榎木野裕美, 鎌田佳奈美, 堀井理司, 小山田浩子 : 被虐待児のケアニーズアセスメント指標開発とその効果測定
- 2) 平成8年度文部省科学研究費補助金 (奨励研究A), 鎌田佳奈美 : 中心静脈栄養法を長期間続行している患児がもつ食行動の問題分析とケア方法の探求
- 3) 大同生命厚生事業団地域保健福祉研究助成金一般研究, 鈴木泰子, 鈴木敦子, 上野昌枝, 山田和子, 毛受矩子, 鎌田佳奈美, 榎木野裕美 : 被災における子どものニーズについて
- 4) 平成8年度文部省科学研究費 (奨励研究A), 中嶋有加里 : 若い両親と児を支援するための大都市における地域社会システムの基礎的研究
- 5) 厚生省心身障害研究, 松井一朗 (代表), 小林道子, 納谷保子, 鈴木敦子 : 母子保健における養育問題事例への援助実態
- 6) 平成8年度文部省科学研究員 (一般C), 原田徳蔵, 堀井理司 : 在宅静脈栄養施行中の小児難治性下痢症の発育とQOLに関する研究

成人・老人看護学講座

1. 論文 (原著, 総説, 報告書等)

- 1) 高橋章子 : 災害看護, Emergency Nursing, 1996新春増刊号, 通巻89号, 194 - 207, 1996.
- 2) 高橋章子 : 救急看護婦の教育目標, Emergency Nursing, 1996夏季増刊号, 通巻96号, 24 - 33, 1996.
- 3) 高橋章子 : 認定救急看護師はエキスパートへの第一歩, 看護48 (6), 62 - 65, (14) 101 - 104, 1996.
- 4) 高橋章子 : 救急看護の特性と基本的考え方, エキスパートナース, 12 (6), 96 - 99, 1996.
- 5) 高橋章子 : 救急看護におけるバイタルサインの見方, エキ

スパートナース, 12 (7), 80 - 83, 1996.

- 6) 高橋章子 : ドレナージ療法を受ける患者の看護問題とその対策, 看護技術, 42 (9), 6 - 10, 1996.
- 7) 高橋章子 : 認定看護師の生まれるまで, Emergency Nursing, 9 (11), 10 - 14, 1996.
- 8) 荻野 敏 : 耳鳴症例に対する牛車腎気丸の使用経験, 老化と疾患, 9 : 255 - 257, 1996.
- 9) 荻野敏, 入船盛弘, 原田保 : 喘息死したアスピリン喘息症例, アレルギーの領域, 3 : 356 - 359, 1996.
- 10) 荻野 敏 : 暮らしと健康相談室『鼻茸』, 暮らしと健康4月号, 82 - 83, 1996.
- 11) 荻野敏, 榎本雅夫, 丹生真理子, 原田保, 板谷英貴, 和田光雄 : MAST法による特異IgE抗体陽性者の地域差 (第3報) - 大阪における鼻アレルギー患者との比較 -, 耳鼻, 42 : 145 - 151, 1996.
- 12) 奥田稔, 形浦昭克, 朝倉光司, 松永亨, 荻野敏, 他90名 : 通年性鼻アレルギー性鼻炎に対するE0659点鼻ゲルの臨床的検討 - 至適投与量の検討 -, 耳鼻, 42 : 161 - 183, 1996.
- 13) 荻野敏, 菊守寛, 後藤啓恵, 入船盛弘 : イネ科花粉症に対するアゼラスチンの臨床効果の検討, 耳展, 39 : 222 - 231, 1996.
- 14) 荻野敏, 原田保 : 全身倦怠感を伴ったアレルギー性鼻炎に対する補中益気湯の臨床効果, 耳鼻, 42 : 282 - 287, 1996.
- 15) 荻野 敏 : 耳鼻科領域におけるアスピリン過敏症, アレルギー性鼻炎のプライマリ・ケア, 2 (3) : 15, 1996.
- 16) 荻野敏, 大島一郎, 酒井國男, 飯尾明, 浅井英世, 若杉一夫, 後藤和彦, 有賀秀治, 落合薫, 菊守寛 : 新咽喉頭殺菌塗布剤 (SSK-501) の臨床効果, 新薬と臨床, 45 (7) : 1356 - 1373, 1996.
- 17) 馬場駿吉, 海野徳二, 高坂知節, 馬場廣太郎, 荻野敏, 他154名 : ラマトロパンの鼻アレルギー臨床第Ⅲ相試験 - テルフェナジンとの比較, 耳鼻臨床, 補87 : 1 - 32, 1996.
- 18) 荻野 敏 : アステミゾール (ヒスマナール) が有効であったためいを伴うアレルギー性鼻炎症例, Prog Med, 16 : 2920 - 2921, 1996.
- 19) 荻野 敏 : 肩こりに対する桂枝茯苓丸の効果, 耳鼻臨床補89 : 6, 1996.
- 20) 荻野 敏 : 花粉症における薬物療法の実際, アステミゾール (ヒスマナール), Prog Med, 16 : 41 - 44, 1996.
- 21) 荻野 敏 : 花粉症と抗コリン薬, Medical World, No.16 : 18 - 19, 1996.
- 22) 荻野 敏 : スギ花粉症の薬物療法, アレルギー科, 1 (3) : 311 - 317, 1996.
- 23) 荻野 敏 : 抗アレルギー噴霧吸入薬 (点鼻薬) について, アレルギーの臨床, 16 (8) : 584 - 587, 1996.
- 24) 荻野 敏 : アスピリン喘息, ラウンドミラー, Vol.5 : 2 - 5, 1996.
- 25) 江川隆子 : 看護診断プロセスにおける批判的思考の必要性, Quality Nursing, 2 (9), 14 - 18, 1996.
- 26) 江川隆子 : らくらく看護過程, データベースと情報I, EN

- 看護学生版, 5 (1), 77 - 81, 1996.
- 27) 江川隆子：らくらく看護過程, データベースと情報Ⅱ, EN 看護学生版, 5 (2), 73 - 77, 1996.
- 28) 江川隆子：看護診断は“ホリスティック”か, インターナショナルナーシングレビュー, 19 (3), 46 - 51, 1996.
- 29) 江川隆子：患者独立のための看護ケア－ヘンダーソンの理論－, データ・ベース, 17 (5), 8 - 14, 1996.
- 30) T. Tsujinaka, M. Sakaue, S. Iijima, C. Ebisui, K. Kan, M. Kishibuchi, T. Morimoto, Y. Kido : Modulation of Thermogenic Response to Parenteral Amino Acid Infusion in Surgical Stress, *Nutrition* 12 (1) ., 36-39, 1996.
- 31) S. Iijima, T. Tsujinaka, M. Kishibuchi, Y. Kido, C. Ebisui, k. Kan, M. Yano, T. Mori : A Total Parenteral Nutrition Solution Supplemented with a Nucleotide and Nucleoside Mixture Sustains Intestinal Integrity, but Does Not Stimulate Intestinal Function after Massive Bowel Resection in Rats, *J. Nutr.* 126 (3), 589-595, 1996.
- 32) 丸橋佐和子, 山本裕子, 柳井勉：プロセスレコードの分析からみた患者への対応に関する考察－看護婦が陥りやすい事例を中心として－, 大阪教育大学紀要, 44 (2), 278 - 285, 1996.
- 33) 丸橋佐和子, 山本裕子, 伊藤憲子：内視鏡下手術を受ける患者の術前・術中・術後のケア, 臨牀看護, 22 (9), 1496 - 1500, 1996.
- 34) 丸橋佐和子：批判的思考育成のための事例検討の指導の実際－プロセスレコードを用いて－, *Quality Nursing*, 2 (10), 22 - 27, 1996.
- 35) 河口てる子, 田村誠, 吉田亨, 川田智恵子：CDE（糖尿病教育士）養成カリキュラムの検討－特定疾患教育スペシャリスト：CDEとCNS（専門看護婦）との共存－, *Quality Nursing*, 2 (2), 44 - 50, 1996.
- 36) 河口てる子：糖尿病患者へのケアマネージメント－ケアギヴァ兼ケアマネジャーとしての看護婦－, *看護学雑誌*, 60 (2), 118 - 121, 1996.
- 37) 河口てる子：看護研究の向上に寄与する調査研究法－他領域への説得力とアピール性を増すために, *看護研究*, 29 (1), 83 - 88, 1996.
- 38) 河口てる子：糖尿病患者における食事療法実行度の推移パターンとその心理的相違, 日本赤十字看護大学紀要, 10, 31 - 42, 1996.
- 39) 河口てる子：地域における調査研究のポイント－実態調査から実証研究へ, 保健婦雑誌, 52 (3), 184 - 189, 1996.
- 40) 河口てる子：「臨牀看護総論」の授業計画とその展開, *Quality Nursing*, 2 (4), 36 - 40, 1996.
- 41) 河口てる子：実態調査と調査研究の「差」－調査研究と呼べる調査とは：理論編－, *看護研究*, 29 (2), 69 - 75, 1996.
- 42) 河口てる子：患者教育の重要性とその基本－効果的な指導のために知っておきたい教育理論, エキスパートナース, 12 (5), 48 - 51, 1996.
- 43) 岡谷恵子, 河口てる子：尺度・測定用具開発のプロセス, および日本版作成（日本語訳）の手順, 日本看護科学会誌, 16 (1), 21 - 27, 1996.
- 44) 河口てる子：看護実践に即した調査研究計画の立案：実践編①－概念枠組みから調査票まで－, *看護研究*, 29 (3), 89 - 93, 1996.
- 45) 佐々木幾美, 佐藤富美子, 中根薫, 長江弘子, 河口てる子：看護大学生の「ゆとり」に対する意識調査, *Quality Nursing*, 2 (8), 44 - 50, 1996.
- 46) 河口てる子：看護実践に即した調査研究計画の実際 実践編②：調査票の作成例より, *看護研究*, 29 (4), 75 - 79, 1996.
- 47) 河口てる子：臨床実習における批判的思考の育成指導の実際, *Quality Nursing*, 2 (10), 28 - 34, 1996.
- 48) 河口てる子：看護調査研究の実際 実践編③：調査の実施手順, *看護研究*, 29 (5), 91 - 96, 1996.
- 49) 河口てる子：看護実践に即した調査研究の実際 実践編④：統計処理準備, *看護研究*, 29 (6), 81 - 85, 1996.
- 50) Margaret Lunney, 山本裕子, 江川隆子訳：基礎看護教育における看護診断と看護カリキュラム, *看護診断*, 1 (1), 16 - 27, 1996.
- 51) 山本裕子, 江川隆子：慢性腎不全患者の看護, *クリニカルスタディ*, 17 (9), 16 - 25, 1996.
- 52) 大谷英子：看護診断の妥当性研究の一例；Content Diagnostic Validation modelを用いた研究過程を中心に, *看護診断*, 1 (1), 58 - 65, 1996.
- 53) 大谷英子, 松本光子, 越村利恵：がん患者のQuality of Life (QOL) と臨牀看護の方向性－乳がん手術患者の心理的適応に関する縦断的研究を通して－, *がん看護*, 1 (1), 16 - 22, 1996.
- 54) 大谷英子：批判的思考育成のための臨床実習指導の実例, *Quality Nursing*, 2 (10), 35 - 50, 1996.

2. 単行本（著書、翻訳本）

- 1) 山崎美恵子, 中野綾美, 高橋章子, 他：明解看護学双書, 基礎看護学Ⅱ, 61 - 110, 金芳堂, 1996.
- 2) 藤井千穂, 高橋章子, 寒河江英子, 柳生啓子, 他：新版エマージェンシーナーシング, メディカ出版, 2 - 9, 1996.
- 3) 荻野 敏：喘息と鼻茸, メディカル用語ライブラリー『アレルギー』, (編著：羅智靖, 太田進, 河野陽一, 古江増隆), 158 - 159, 羊土社, 1996.
- 4) 荻野 敏：65. アスピリン喘息と鼻茸の関係, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド, (編集：野村恭也, 本庄巖, 平出文久), 148, 中山書店, 1996.
- 5) 荻野 敏：66. アレルギー性鼻炎の最近の傾向, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド, (編集：野村恭也, 本庄巖, 平出文久), 149 - 151, 中山書店, 1996.
- 6) 荻野 敏：スギ花粉症の低年齢化・高齢化, 耳鼻咽喉科診療Q&A, 追録第23号, 605-3-9-10-605-3-9-11, 六法出版社, 1996.
- 7) 荻野 敏：アレルギー疾患Q&A, (宮本昭正：監修), 189 - 191, 医薬ジャーナル社, 1996.

- 8) 荻野 敏：反復性多発性軟骨炎，図説耳鼻咽喉科NEW APPROACH 4（総編集：神崎仁），耳鼻咽喉科疾患への免疫学的アプローチ（編集：茂木五郎），151 - 155，メジカルビュー社，1996.
 - 9) 江川隆子編著：事例で学ぶ看護過程，照林社，1996.
 - 10) 江川隆子：看護の変遷（稲本一夫，折田義正編），98 - 104，医薬歯出版，1996.
 - 11) 小野幸子，江川隆子：事例で学ぶ看護診断
 - 12) 江川隆子，小田正枝，松田たみ子訳：看護診断入門 1. 理論編 Nursing Process-Application of Conceptual Models，廣川書店，277 - 289，1996.
 - 13) 江川隆子，小田正枝，松田たみ子訳：看護診断入門 2. 実践 Nursing Process-Application of Conceptual Models，廣川書店，481，1996.
3. 学会発表（抄録，Proceedings）
- 1) 高橋章子，寺師栄，木村直子，他：阪神・淡路大震災における看護行動の調査，第24回日本救急医学会，1996.
 - 2) 寺師栄，高橋章子，木村直子，他：阪神淡路大震災における被災地看護婦の職場環境とストレス，第24回日本救急医学会，1996.
 - 3) 前本由紀，京極多歌子，刀谷峰子，寺師栄，高橋章子：フィリッピン，日本における災害看護教育の現状，第24回日本救急医学会，1996.
 - 4) 長尾貴代治，寺師栄，高橋章子，木村直子，他：阪神・淡路大震災における精神保健調査，第24回日本救急医学会，1996.
 - 5) 高橋章子：看護婦による効果的なトリアージ，第3回アジア太平洋救急災害医学会，1996.
 - 6) 高橋章子：救助システムの開発における看護婦の役割，第3回アジア太平洋救急災害医学会，1996.
 - 7) 荻野 敏：特別講演 『鼻アレルギー，副鼻腔炎の薬物療法－特に薬剤の副作用，相互作用について』，第2回宮城県耳鼻科・皮膚科・小児科免疫アレルギー懇話会，1996.
 - 8) 荻野 敏：特別講演 『耳鼻咽喉科からみたアスピリン喘息』，第38回臨床アレルギー研究会，1996.
 - 9) 荻野 敏：通年性アレルギー性鼻炎に対するテルフェナジンの効果－血清ECPとの関係，第8回日本アレルギー学会春季臨床大会，1996.
 - 10) 荻野 敏：アスピリン喘息に伴う鼻茸に対するブランルカスト（オノン）の効果，第36回日本アスピリン喘息研究会，1996.
 - 11) 栗原宏子，江川隆子，他：末梢血行障害を有する糖尿病患者における動脈硬化指標の検討，第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996.
 - 12) 栗原宏子，江川隆子，他：末梢血行障害を有する糖尿病患者における動脈硬化危険因子の検討，第10回糖尿病合併症研究会，1996.
 - 13) 江川隆子：患者教育実施側からの問題点，第2回日本糖尿病眼学会，大阪，1996.
 - 14) 江川隆子，松木光子，大谷英子，小笠原知枝，大野ゆう子：NANDA看護診断カテゴリーの適切性の評価，第16回日本看護科学学会，1996.
 - 15) 大谷英子，松木光子，小笠原知枝，江川隆子，大野ゆう子：NANDA看護診断カテゴリーの使用頻度と重要性に関する調査，第16回日本看護科学学会，1996.
 - 16) 丸橋佐和子，柳井勉：Assessing the effects of caring for middle-aged and elderly patients who have recently been discharged from a specialized care facility on the physical and mental health of care-giving family member, The Third International Conference of Health Behavioral Science, October, 1996.
 - 17) 丸橋佐和子：特定機能病院を退院した中高年齢患者の心身の状態と影響要因，第16回日本看護科学学会，1996.
 - 18) 河口てる子，寺沢明子：看護婦のための患者教育研修の効果，日本健康教育学会第5回大会，東京大学山上会館，1996.
 - 19) 河口てる子：在宅看護における患者・家族主体化の可能性－病院，および在宅看護の現状と患者・家族の意思決定への援助－，日本保健医療社会学会第22回大会，1996.
 - 20) 河口てる子：糖尿病患者教育の現状と問題点，日本糖尿病教育・看護学会第1回大会，1996.
 - 21) 鳥居美帆，河口てる子：糖尿病患者の認知における食事療法実践分類とタイプ別患者教育の検討，日本糖尿病学会第39回大会，アクロス福岡，1996.
 - 22) 麻川みどり，河口てる子：看護婦の患者家族への援助，日本看護学会第27回大会看護管理分科会，長崎，1996.
 - 23) 澤田恭子，河口てる子：成人アトピー性皮膚炎患者の治療に関わる心理－患者の持つ悩み・不安・疑問からの分析－，日本健康教育学会第5回大会，東京大学山上会館，1996.
 - 24) 土橋佐智子，河口てる子：脳卒中患者の障害受容過程－障害受容過程における“あきらめ”の意味－，日本健康教育学会第5回大会，東京大学山上会館，1996.
 - 25) Eiko Otani, Mitsuko Matsuki, Yuko Yamamoto, Yasyko Kume, Yoshihiro Kido, Ikuko Mitani, Tisato Yanagawa, Ryouko Shimizu, Atsuo Murata, Hitoshi Shiozaki, Morino Monden : Studies on Quality of Life (QOL) of Patients who Underwent Oesophagectomy for oesophageal cancer (1) Subjective symptoms, 9th International conference on Cancer Nursing, 122, 1996.
 - 26) Yuko Yamamoto, Mitsuko Matsuki, Eiko Otani, Yasuko Kume, Ikuko Mitani, Tisato Yanagawa, Ryouko Shimizu, Atsuo Murata, Hitoshi Shiozaki, Morito Monden, Yoshihiro Kido : Studies on quality of life (QOL) of patients who underwent esophagectomy for esophageal cancer (2) Dietary behaviors, 9th International Conference on Cancer Nursing Proceedings, 122 - 123, 1996.
 - 27) Yasuko Kume, Mitsuko Matsuki, Eiko Otani, Yuko Yamamoto, Ikuko Mitani, Tisato Yanagawa, Ryouko Shimizu, Atsuo Murata, Hitoshi Shiozaki, Morito Monden, Yoshihiro Kido : Studies on quality of life (QOL) of patients who underwent esophagectomy for esophageal

cancer (3) Psychosocial phase, 9th International Conference on Cancer Nursing Proceedings, 123, 1996.

- 28) 伊達久美子：在宅ケア導入期における家族介護者が訪問看護婦に抱く期待と信頼，日本家族看護学会第3回学術集会抄録，16, 1996.

4. 研究助成

- 1) 平成8年度文部省科学研究費（一般B（継続））松本光子（代表），小笠原知枝，江川隆子，大野ゆう子，城戸良弘，大谷英子，山本裕子：看護情報システム構築のための看護診断の標準化と評価用具のソフト開発。
- 2) 平成8年度文部省科学研究（基盤C），江川隆子（代表），丸橋佐和子，大谷英子，山本裕子，花房俊昭，糖尿病性動脈硬化症における新しい看護診断の指標と看護援助の確立。
- 3) 平成8年度文部省科学研究員（基盤研究A1），川田智恵子（代表），山崎喜比古，吉田亨，田村誠，河口てる子，武田文，江川緑，保健医療福祉領域での生活に関わる実用的スケールの考案・開発と方法の理論化。
- 4) 平成8年度文部省科学研究員（奨励研究A），大谷英子：食道癌術后患者のQOLに関する検討。

地域看護学講座

1. 論文（原著，総説，報告書等）

- 1) 早川和生：看護職独自の活動とは何か，看護，48（5），50－54, 1996.
- 2) 早川和生：看護と介護の専門性と連携，看護，48（5），7－18, 1996.
- 3) 早川和生，清水忠彦，他：双子老人の生活環境の比較からみた精神老化・痴呆の危険因子的研究：成人双生児2,500組の追跡健康調査，大和証券ヘルス財団研究業績集，20巻，114－120, 1996.
- 4) 早川和生，南裕子，羽山由美子：「看護基礎教育における看護理論，看護診断の学習をめぐる」，日本看護学教育学会雑誌，6（3），125－135, 1996.
- 5) 早川和生：専門看護師の養成に向けて，大阪大学看護学雑誌，2（1），1, 1996.
- 6) 早川和生：多胎児を産み育てる家庭への支援システムとファミリーケア，大阪府立母子保健総合医療センター雑誌，12（1），8－13, 1996.
- 7) 早川和生，他：開かれた看護教育となるための転部・編入学を考える，看護教育，37（9），696－702, 1996.
- 8) 早川和生，清水忠彦，横山美江：多胎家庭におけるソーシャルサポートのニーズに関する実態調査，厚生省心身障害研究「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究班」研究報告書，201－204, 1996.
- 9) Hayakawa A, K.: Editor's Note, News from JANS, vol.6, 5, 1996.
- 10) 早川和生，清水忠彦：双子老人の生活環境の比較からみた

精神老化痴呆の危険因子的研究，難波照男記念健康づくり研究所研究論文集，11－15, 1996.

- 11) 早川和生：多胎児のファミリーケア及び家族支援システムに関する開拓的研究，三菱財団報告書，360－361, 1996.
- 12) Masuo K, Mikami H, Ogihara T and Tuck ML.: Changes in frequency of orthostatic hypotension in elderly hypertensive patients undermedications, American Journal of Hypertension 9: 263-268, 1996.
- 13) Masuo K, Mikami H, Ogihara T and Tuck ML.: Mechanisms mediating postprandial blood pressure reduction in young and elderly subjects, American Journal of Hypertension 9: 536-544, 1996.
- 14) Masuo K, Mikami H, Ogihara T and Tuck ML.: Do reduced insulin sensitivity and dyslipidemia exist in borderline hypertensive patients?, American Journal of Hypertension 9: 566-569, 1996.
- 15) Yo Y, Nagano M, Moriguchi A, Nakamura F, Kobayashi R, Okuda N, Kamitani A, Nakamura Y, Kamide K, Fujisawa T, Higaki J, Mikami H and Ogiara T.: Predominance of nocturnal sympathetic nervous activity in salt-sensitive normotensive subjects, American Journal of Hypertension 9: 726-731, 1996.
- 16) Masuo K, Mikami H, Ogihara T and Tuck ML.: Differences in insulin and sympathetic responses to glucose ingestion due to family history of hypertension, American Journal of Hypertension 9: 739-745, 1996.
- 17) Iiyama K, Nagano M, Yo Y, Nagano N, Kamide K, Higaki J, Mikami H and Ogihara T.: Impaired endothelial function with essential hypertension assessed by ultrasonography, American Heart Journal 132: 779-782, 1996.
- 18) 中村成史，守口篤，森下竜一，姚香景，中野信明，山田和生，三上洋，桧垣實男，荻原俊男，中村敏一：高血圧の合併症進展における血清肝細胞増殖因子（HGF）測定の意義と検討，Therapeutic Research, 17: 2583－2586, 1996.
- 19) 荻原俊男，中川雅夫，土肥和紘，石川，三上洋，松本正幸，淡田修久，奥田聖介，金内雅夫，武田和夫，橋本俊雄，波多丈，桧垣實男，東森浩一，古川啓三，八谷孝，熊原雄一：本態性高血圧症患者におけるCa拮抗薬，塩酸バルニジピンとACE阻害薬のQuality of Lifeに及ぼす影響の比較検討，血圧，3: 96－106, 1996.
- 20) 三上洋：循環器疾患－State of the arts「高血圧治療とQOL」医学のあゆみ（別冊）：431－433, 1996.
- 21) 三上洋，荻原俊男：高齢者高血圧の大規模臨床成績，今月の治療，4: 735－741, 1996.
- 22) 三上洋，荻原俊男：代表的な世界のメガトライアルー降圧療法－，CARDIAC PRACTICE, 7: 21－27, 1996.
- 23) 荻原俊男，三上洋：医療におけるQOLとは何か，からだの科学，188: 16－19, 1996.
- 24) 三上洋：高齢者のQOL，からだの科学，188: 58－63, 1996.
- 25) 三上洋：〈高血圧症へのアプローチ〉高血圧患者における

QOLの評価, 日本医事新報, 3786: 1-4, 1996.

- 26) 三上洋: 8. 薬物治療 b. 高齢者における循環器薬物療法, 臨床医, 22: 1221-1224, 1996.
- 27) 上原ます子: 訪問看護の評価に関するケースコントロール研究-訪問看護の受け手と訪問看護婦による比較-, 笹川医学医療財団看護職員研究報告, 3, 76-78, 1995.
- 28) 佐々木陽, 上原ます子, 堀内成人, 長谷川恭一, 清水孝郎: 15年間にわたるインスリン非依存糖尿病(NIDDM)の追跡調査-(1)糖尿病患者の生命予後と死因の変化, 糖尿病, 39(1), 31-38, 1996.
- 29) 佐々木陽, 上原ます子, 堀内成人, 長谷川恭一, 清水孝郎: 15年間にわたるインスリン非依存糖尿病(NIDDM)の追跡調査-(2)糖尿病患者の生命予後に関連する因子, 糖尿病, 39(4), 247-253, 1996.
- 30) 佐々木陽, 上原ます子, 堀内成人, 長谷川恭一, 清水孝郎: 15年間にわたるインスリン非依存糖尿病(NIDDM)の追跡調査-(3)喫煙が糖尿病患者の予後に及ぼす影響, 糖尿病, 39(7), 503-509, 1996.
- 31) 上原ます子: 家族のとらえ方-その多様性, 家族への支援, 看護教育, 37(12), 965-971, 1996.
- 32) 石井京子, 上原ます子, 須藤由香, 田内規子, 野村和子: 高齢者への家族ケア機能指標の検討, 藍野学院紀要, 10, 21-28, 1996.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 早川和生, 尾崎フサ子: 看護独自の介入・広がるサイエンスとアート, メディカ出版, 1996.
- 2) 早川和生: 多胎出産の増加とファミリーケア, in 看護教育編集室編「母性看護学」, 64-68, 医学書院, 1996.
- 3) 稲本一夫, 早川和生編: 医療科学, 医歯薬出版, 1996.
- 4) 早川和生: 中毒・物理的原因による疾患, in 稲本一夫, 折田義正編: 臨床医学, 65-70, 医歯薬出版, 1996.
- 5) 早川和生: 序論, in 早川和生, 他編: 在宅看護論, 医学書院, 1996.
- 6) 三上洋: ACE阻害薬の薬理作用と効果「実地診療におけるレニン・アンジオテンシン系抑制薬の手引」(荻原俊男, 國府達郎, 猿田亨男, 日和田邦男編), 医薬ジャーナル社, 28-29, 1995.
- 7) 三上洋, 荻原俊男: アンジオテンシンII受容体拮抗薬「アンジオテンシンII受容体拮抗薬-第一世代の開発と臨床的意義」(日和田邦男, 猿田亨男, 荻原俊男編), 医薬ジャーナル社, 93-105, 1995.
- 8) 荻原俊男, 三上洋: 老年者高血圧治療とQOL「老年者高血圧の治療指針」(荻原俊男編), 先端医学社, 201-208, 1996.
- 9) 三上洋, 桧垣實男: II. 腎臓の病気をめぐる最新のトピックス 4. 高血圧, 「腎疾患の分子医学」(黒川清編), 羊土社, 110-121, 1996.
- 10) 三上洋: 老人保健「医用放射線科学講座1, 医療科学」(稲本一夫, 早川和生編), 医歯薬出版, 93-96, 1996.
- 11) 三上洋: 高齢者疾患の特徴と放射線検査「医用放射線科学講座3, 臨床医学」(稲本一夫, 折田義正編), 医歯薬出版, 76-80, 1996.
- 12) 三上洋: (1)「非薬物療法-ライフスタイル改善」(47-54), (2)「利尿降圧薬」(61-70), (3)「 α_1 遮断薬」(111-118), (4)「降圧薬の副作用」(241-250), (5)「降圧薬とQOL」(257-262), (6)「降圧薬とコンプライアンス」(263-268), 「高血圧の治療 改訂第2版」(荻原俊男編著), 永井書店, 1996.
- 13) 三上洋: 老年者のADLとQOL「慢性疾患とQOLシリーズII 老年病とQOL」(荻原俊男編), 医薬ジャーナル社, 22-36, 1996.
- 14) 三上洋: 在宅における歯科診療「看護教育新カリキュラム展開ガイドブック, 第6巻 在宅看護論」(「看護教育」編集室編), 医学書院, 67-70, 1996.
- 15) 三上洋: 1) 血圧日内変動とdipper/non-dipper (112-113), 2) SHEPスタディ (114-115), 「KEY WORD-循環器」(荻原俊男, 中川雅夫, 日和田邦男編), 先端医学社, 1996.
- 16) 三上洋: 1) α 遮断薬とQOL (56-57), 2) β 遮断薬とQOL (102-103), 「実地診療における交感神経受容体遮断薬の手引」(猿田亨男, 日和田邦男, 荻原俊男, 築山久一郎), 医薬ジャーナル社, 1996.
- 17) 三上洋: アンジオテンシンIIアナログ「アンジオテンシンII受容体拮抗薬のすべて」(荻原俊男, 菊池健次郎, 猿田亨男, 日和田邦男, 宮崎瑞夫, 築山久一郎), 医薬ジャーナル社, 75-80, 1996.
- 18) 上原ます子: 在宅におけるターミナルケア-訪問看護の役割と課題-, 看護教育カリキュラム展開ガイドブック6-在宅看護論, 看護教育編集室編, 医学書院, 71-74, 1996.

3. 学会発表(抄録, Proceedings)

- 1) 早川和生: 看護基礎教育に看護理論・看護診断導入のねらいと課題, 日本看護学教育学会第6回学術集会, 1996.
- 2) 早川和生: 多胎児を産み育てる家族に対する支援を考える, 第55回日本公衆衛生学会自由集会, 1996.
- 3) 早川和生, 他: 多胎家庭のWelfareとケアに関する研究, 第10回日本双生児研究学会, 1996.
- 4) 横山美江, 早川和生: 双子・三つ子における障害児の発生状況の検討(第1報), 第22回日本看護研究学会, 1996.
- 5) 横山美江, 早川和生: 双子・三つ子における障害児の発生状況の検討(第2報), 第22回日本看護研究学会, 1996.
- 6) 横山美江, 早川和生, 秋山利行, 大場康寛: 双生児の血球分析とリンパ球サブセットに関与する遺伝と環境要因の相対的強度の検討, 第10回日本双生児研究学会, 1996.
- 7) Masuo K, Mikami H, Ogihara T: Comparisons of ameliorative effects between nifedipine and captopril in hyperin-sulinemia and hyperlipidemia for 5-years medications, Asian-Pacific Congress on Vascular Disease Prevention, Singapore, March 11-15, 1996.
- 8) Masuo K, Mikami H, Ogihara T: Age, body mass index,

- blood pressure levels, sympathetic nerve activity and dyslipidemia are related with mechanisms of orthostatic hypotension, Asian-Pacific Congress on Vascular Disease Prevention, Singapore, March 11 – 15, 1996.
- 9) Nakano N, Moriguchi A, Morishita R, Higaki J, Nagano M, Kamide K, Yo Y, Yamada K, Nakamura S, Mikami H, Nakamura T, Ogihara T : A novel vascular modulator, hepatocyte growth factor (HGF) , is associated with the regression of cardiac hypertrophy by chronic treatment in spontaneously hypertensive rats, Asian-Pacific Congress on Vascular Disease Prevention, Singapore, March 11 – 15, 1996.
 - 10) Yo Y, Moriguchi A, Higaki J, Nagano M, Nakano N, Kamide K, Mikami H, Ogihara T : Effect of angiotensin II antagonist on the hypertensive renal damage in stroke-prone spontaneously hypertensive rats, Asian-Pacific Congress on Vascular Disease Prevention, Singapore, March 11 – 15, 1996.
 - 11) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Sympathetic nerve hyperactivity followed by hyperinsulinemia is related to the onset or progression of hypertension, The 11th Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, New York, May 15 – 18, 1996.
 - 12) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Nifedipine-retard improves reduced insulin sensitivity in both young and elderly hypertensive, The 11th Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, New York, May 15 – 18, 1996.
 - 13) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Comparisons of prevalence of orthostatic hypotension between elderly hypertensive patients with and without hyperlipidemia, The 11th Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, New York, May 15 – 18, 1996.
 - 14) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Reduced insulin sensitivity and impaired sympathetic nerve responsiveness are related to the mechanisms of orthostatic hypotension in elderly hypertensive patients, The 11th Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, New York, May 15 – 18, 1996.
 - 15) Nakano N, Moriguchi A, Kamide K, Nagano M, Yo Y, Higaki J, Mikami H, Ogihara T : Ambulatory Blood Pressure and Insulin Sensitivity in Essential Hypertensive Patients, 7th International Congress on Ambulatory Monitoring, Urayasu, Japan, May 8, 1996.
 - 16) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Age, body mass index and an impaired sympathetic nerve activity and related with the prevalence of postprandial hypotension, The 10th International Congress of Endocrinology, San Francisco, CA, June 12 – 15, 1996.
 - 17) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Differences in mechanisms of orthostatic hypotension between young and elderly subjects, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 18) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Clinical characteristics of non-obese, elderly hypertensive patients with orthostatic hypotension, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 19) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Differences in mechanisms of postprandial hypotension among elderly normotensive, borderline hypertensive, isolated systolic hypertensive and established hypertensives, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 20) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Comparisons of ameliorative effects in hyperinsulinemia and hyperlipidemia in long-term treatment between nifedipine and captopril, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 21) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Mechanisms of reduction in frequency of orthostatic hypotension in captopril differ from nifedipine in elderly hypertensives, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 22) Moriguchi A, Higaki J, Yamada K, Nagano M, Nakano N, Yo Y, Kamide K, Morishita R, Mikami H, Ogihara T : Angiotensin II receptor antagonist HR720 is more effective than losartan of enalapril on baroreflex sensitivity, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 23) Nakamura S, Moriguchi A, Morishita R, Nakamura Y, Aoki M, Kida I, Nakano N, Yamada K, Yo Y, Mikami H : A normal vascular modulator, hepatocyte growth factor is associated with progression of hypertension, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 24) Nakamura S, Moriguchi A, Morishita R, Kida I, Hayashi S, Aoki M, Nakano N, Yamada K, Yo Y, Mikami H, Higaki J, Ogihara T : Evidence for the presence of the vascular hepatocyte growth factor system in human blood vessel, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 25) Nakano N, Moriguchi A, Morishita R, Higaki J, Yo Y, Yamada K, Matsumoto K, Mikami H, Ogihara T : Increased serum hepatocyte growth factor and decreased local HGF in spontaneously hypertensive rats, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 – 27, 1996.
 - 26) Moriguchi A, Higaki J, Yamada K, Nagano M, Nakano N,

- Yo, Y, Kamide k, Morishita R, Mikami H, Ogihara T : Angiotensin II receptor antagonist HR720 is more effective than losartan or enalapril on baroreflex sensitivity, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 - 27, 1996.
- 27) Nakamura S, Moriguchi A, Morishita R, Kida I, Hayashi S, Aoki M, Nakano N, Yamada K, Yo Y, Mikami H, Higaki J, Ogihara T : Evidence for the presence of the vascular hepatocyte growth factor system in human blood vessel, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 - 27, 1996.
- 28) Yamada K, Moriguchi A, Morishita R, Nakano N, Nakamura S, Mikami H, Keneda Y, Higaki J, Ogihara T : Role of transcriptional CIS-element of angiotensinogen gene in the central regulation of blood pressure, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 - 27, 1996.
- 29) Yamada K, Moriguchi A, Morishita R, Higaki J, Mikami H, Keneda Y, Urata H, Ogihara T : Transfection of human chymase gene into the rat brain elevates blood pressure by activation of brain angiotensin II, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 - 27, 1996.
- 30) Yo Y, Moriguchi A, Higaki J, Nagano M, Nakano N, Kamide K, Mikami H, Ogihara T : Angiotensin II antagonist, HR720 has similar potency to enalapril for the prevention of hypertensive renal damage, 16th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Glasgow, U.K., June 23 - 27, 1996.
- 31) Nakano N, Moriguchi A, Morishita R, Kida I, Nakamura S, Yo Y, Mikami H, Nakamura T, Higaki J, Ogihara T : Importance of tissue hepatocyte growth factor in the regression of hypertensive cardiac hypertrophy, 50th Annual Fall Conference and Scientific Sessions, Chicago, Sep 18, 1996.
- 32) Yamada K, Moriguchi A, Morishita R, Kaneda Y, Mikami H, Urata H, Higaki J, Ogihara T : Effect of gene transfer of human angiotensin II processing enzymes into the rat brain of blood pressure and neuroendocrine responses, 50th Annual Fall Conference and Scientific Sessions, Chicago, Sep 18, 1996.
- 33) Yamada K, Moriguchi A, Morishita R, Kaneda Y, Mikami H, Urata H, Higaki J, Ogihara T : Importance of transcriptional cis-element of angiotensinogen in the central regulation of blood pressure, 50th Annual Fall Conference and Scientific Sessions, Chicago, Sep 18, 1996.
- 34) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML : Exaggerated urinary sodium excretion caused by hyperinsulinemia is not related with stimulated dopaminergic system, 6th International Congress on Peripheral Dopamine, Camerino, Italy, June 28-July 1, 1996.
- 35) Masuo K, Mikami H, Ogihara T : Sympathetic nerve hyperactivity followed by hyperinsulinemia is the potent determinant factor on the onset of hypertension, 6th International Congress of the European Society of Cardiology, Birmingham United Kingdom, August 25 - 29, 1996.
- 36) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : 固定型高血圧症に進展する境界型高血圧症の頻度と特性, 第60回日本循環器学会総会・学術集会, 平成8年3月21日, 大阪.
- 37) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : 変換酵素阻害薬, カルシウム拮抗薬は老年高血圧者の起立性低血圧の頻度を減少させる, 第60回日本循環器学会総会・学術集会, 平成8年3月21日, 大阪.
- 38) 山田和生, 守口篤, 森下竜一, 桧垣実男, 青木元邦, 三上洋, 荻原俊男, 金田安史 : アンチセンス-オリゴヌクレオチドの中枢への導入と血圧調節機構解明への利用, 第60回日本循環器学会総会・学術集会, 平成8年3月21日, 大阪.
- 39) 山田和生, 守口篤, 森下竜一, 桧垣実男, 青木元邦, 三上洋, 荻原俊男, 金田安史, 浦田秀則 : 脳への遺伝子導入法を用いた血圧調節におけるヒト・キマーズ遺伝子の機能解明, 第60回日本循環器学会総会・学術集会, 平成8年3月21日, 大阪.
- 40) 山田和生, 守口篤, 森下竜一, 中野信明, 中村成史, 青木元邦, 三上洋, 桧垣実男, 荻原俊男, 金田安史, 深水昭吉, 村上和雄 : 中枢性血圧調節における脳内アンジオテンシノーゲン遺伝子の転写因子結合配列ACEの機能解析, 第60回日本循環器学会総会・学術集会, 平成8年3月21日, 大阪.
- 41) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : Nifedipine-retard長期投与によるインスリン感受性低下の改善-若年高血圧者, 老年高血圧者の比較-, 第39回日本腎臓学会学術総会, 平成8年5月30日, 倉敷.
- 42) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : 食後低血圧の発現頻度への加齢, Body Mass Index, 血圧値の影響, 第38回日本老年医学会学術集会, 平成8年6月11日, 千葉.
- 43) 中野信明, 守口篤, 桧垣実男, 神出計, 長野正広, 姚香景, 三上洋, 荻原俊男 : 老年者における収縮期高血圧とインスリン抵抗性について, 第38回日本老年医学会学術集会, 平成8年6月11日, 千葉.
- 44) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : インスリンの利尿作用にドーパミンは関与しているか?, 第69回日本内分泌学会学術総会, 平成8年7月3日, 大阪.
- 45) 中野信明, 守口篤, 森下竜一, 長野正広, 姚香景, 神出計, 木田岩男, 中村成史, 三上洋, 山田和生, 松本邦夫, 中村敏一, 桧垣実男, 荻原俊男 : 組織レニン-アンジオテンシン系と血管内皮特異的増殖因子HGF(肝細胞再生因子)との関連, 第19回日本高血圧学会総会, 平成8年10月3-5日, 仙台.
- 46) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男 : 交感神経活動性の亢進と高インスリン血症の血圧上昇機序への関与, 第19回日本高血圧学会総会, 平成8年10月3-5日, 仙台.

- 47) 上原ます子, 中村裕美子, 青木菜穂子, 末永洋子, 坂下美恵子, 松尾高子: 在宅療養に移行する高齢患者へのマニュアルを用いた看護の継続性の評価, 第27回日本看護学会地域看護, 1996.
- 48) 上原ます子, 多田羅浩三: 高齢者家族のケア機能に関する研究-入院に伴う変化と関係要因の検討-, 第55回日本公衆衛生学会, 1996.
- 49) 青木菜穂子, 上原ます子, 中村裕美子, 松尾高子, 氏家幸子: 高齢入院患者の在宅療養に向けた連携の効果, 第55回日本公衆衛生学会, 1996.

4. 研究助成

- 1) 平成8年度文部省科学研究費(基礎研究B), 早川和生(代表): 双子老人の生活環境の比較からみた精神老化・痴呆の危険因子の研究: 成人双生児2,500組の追跡健康調査
- 2) 厚生省心身障害研究, 早川和生(代表): 多胎児のケアのあり方に関する研究
- 3) 三菱財団研究助成, 早川和生(代表): 多胎児のファミリーケア及び家族支援システムに関する開拓的研究
- 4) 難波照男記念健康づくり研究所研究助成, 早川和生(代表): 双子老人の生活環境の比較からみた精神老化及び痴呆の危険因子
- 5) 平成8年度門真市母子健康事業のシステム化推進のための調査研究, 早川和生(代表)
- 6) 文部省科学研究費(一般C), 三上洋(代表), 守口篤: 高血圧発症における延髄腹外側部での神経伝達物質としてのアミノ酸の役割の検討
- 7) 厚生省長寿科学総合研究事業「高齢者の高血圧等慢性病態に対する薬物療法の評価に関する研究」, 尾前照雄班長 分担研究: 高齢高血圧患者におけるインスリン感受性と降圧療法に関する研究, 三上洋(代表)
- 8) 平成8年度文部省科学研究費(基礎研究C)(継続), 上原ます子(代表): 高齢者介護による家族機能の変容過程の研究-ケアリング機能の長期観察から-
- 9) 木村看護教育振興財団研究助成, 上原ます子(代表): 高齢者ケアにおけるマニュアルを用いた看護の質的な継続の推進およびシステム化に関する研究.

病院看護部

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 越村利恵: 十二指腸幽門輪温存脾臓十二指腸切除術, 消化器外科ナーシング, 6, 1996.
- 2) 岩崎朋之: ICUでのMRSA検出状況, ICUとCCU, 6, 1996.
- 3) 伊藤憲子, 丸橋佐和子, 山本裕子: 内視鏡下手術を受ける患者の術前, 術中, 術後のケア, 臨床看護, 9, 1996.
- 4) 鎌田政子: 特集: 特発性心筋症への療法と予後, 座談会: 心筋症患者の看護に求められること, ハートナーシング, 10, 1996.

- 5) 山下園美: 脳神経疾患患者の口腔ケア, プレインナーシング, 11, 1996.
- 6) 中山秀子, 吉田妙: 退院後のドナーの健康認識と今後の看護援助, 今日の移植, 9(4), 1996
- 7) 北村博美, 藤本春美, 東村昌代: バリケアを用いての術後創の創傷管理, 季刊, コンパラック, No.26, 1996.
- 8) 北村博美, 藤本春美: CMC系皮膚保護剤を用いての術後創傷管理(第2報)-簡略の試み-, STOMA, 7(5), 1996.
- 9) 古田桂子: 痛風患者の特性と教育および看護の要点, Clinical Nursing Guide 6, 内分泌・代謝疾患, 233-235, 1996

2. 学会発表(抄録集, Proceedings)

- 1) 白川優美子: 重症熱傷における体液変動と看護診断, 第45回日本救急医学近畿地方会
- 2) 田中久美子: プリセプターシップを導入して, 集中治療学会地方会
- 3) 島田里香: 転科時における看護診断名変更の原因について, 第2回日本看護診断学会学術大会
- 4) 圓見千代: 乳房切除後患者のリハビリテーション指導の効果, 第17回全国国立大学病院中国四国地区看護研究発表会
- 5) 山本美和: 洋式トイレで使用する女性用採尿容器の開発, 第17回全国国立大学病院中国四国地区看護研究発表会
- 6) 秋吉愛子: 知って得する手術器械の取扱い方法 内視鏡手術器械編, 第29回大阪府手術室看護研究会
- 7) 田淵利江: 急性期における家族に対する看護の検討, 第32回日本小児循環器学会
- 8) 岡澤恵子: 心疾患罹患者の成長, 発達の生活について, 第32回日本小児循環器学会
- 9) 亀田真美: 看護学生の対人関係阿智の学年変化と看護職に対する認識, 第22回日本看護研究学会
- 10) 小寺郁子: 術後合併症により意識障害が遷延した患者の看護, 日本脳神経外科看護研究会大阪支部研究会
- 11) 中島寛子: 看護診断「組織循環の変調: 脳」に関する妥当性の調査と検討, 日本脳神経外科看護研究会大阪支部研究会
- 12) 山下園美: 当救急部における看護体制の検討, 第23回日本救急医学会総会
- 13) 佐藤政枝: 患者保温用ドレープの比較検討, 第30回大阪府手術室看護研究会
- 14) 小関真紀: 老人保健施設入所者の生活適応のタイプ, 第27回日本看護学会成人看護2Ⅱ分科会
- 15) 泉玲子: UCLAの移植医療を体験して, 第13回近畿肝移植検討会
- 16) 岩崎朋之: UCLAでの臓器移植を体験して, 第13回近畿肝移植検討会
- 17) 小松谷美佐: 退院後のドナーの健康認識と今後の看護援助, 第30回日本腎移植臨床研究会

3. 院内看護研究発表

- 1) 平石多美子 (小児科) : 小児科病棟における「児の社会性の成長・発達」について, 1996.1.11.
- 2) 豊田みゆき (腫瘍内科) : 慢性疲労症候群患者の発症前ストレスならびに性格・行動特性に関する調査, 1996.1.11.
- 3) 佃 順子 (外来) : 外来における看護業務の現状と問題点, 1996.2.8.
- 4) 待鳥容子 (材料部) : 回収時 AC カートの汚染度調査, 1996.2.8.
- 5) 河野万理子 (特殊診断治療部) : 粉塵数測定により骨髓移植患者の個室隔離の緩和を考える, 1996.6.13.
- 6) 島田里香 (脳神経外科) : 転科時における看護診断名変更の原因について, 1996.6.13.
- 7) 西川桃代 (第1内科) : 内科的治療をうけたDCM患者の精神的看護の一考察, 1996.7.11.
- 8) 武智久恵 (特殊救急部) : ローリングベッド使用時の体圧の変化と心理面についての検討, 1996.8.8.
- 9) 前田明子 (手術部) : 当院手術室看護婦の職務満足に関するアンケート調査による一考察, 1996.8.8.
- 10) 竹村典子 (第4内科) : 予後不良の神経難病患者に対する援助のあり方－生きる意欲を持つ為のサポーター－, 1996.9.12.
- 11) 池上景子 (放射線科) : セレクtron治療 (子宮内照射) における苦痛の緩和を考える, 1996.9.12.
- 12) 生島真奈 (第3内科) : 排尿時におけるポータブルトイレの消音の工夫, 1996.10.15.
- 13) 佐田浩子 (整形外科) : 人工股関節全置換術の術前オリエンテーションにVTRを導入して, 1996.10.15.
- 14) 松本晴美 (第1外科) : 病棟の音環境を考える, 1996.11.14.
- 15) 木村澄子 (第2外科) : 食道癌手術患者の入院から退院までの心理状況の変化と看護援助, 1996.11.14.
- 16) 安村あずさ (精神科神経科) : 服薬自己管理のプログラム作成を試みて－事例を通して－, 1996.12.12.
- 17) 油井麻里 (分娩育児部) : 自律哺乳, 時間哺乳を実施して母乳栄養に対する意識づけができるか, 1996.12.12.
- 18) 渡口元子 (第2内科) : 糖尿病患者の自己管理状況から見た破綻要因の検討, 1996.12.12.
- 19) 平尾幸美 (腫瘍外科) : 術後長期ドレナージを必要とする患者のQOLを考える－HAMA持続吸引を必要とした患者においての検討－, 1996.6.13.
- 20) 吉田妙 (泌尿器科) : 退院後のドナーの健康認識と今後の看護援助－アンケート調査 (第1報) －, 1996.10.15.